

余市町出身の宇宙飛行士で余市宇宙記念館の名誉館長の毛利衛さんが8月 27 日、母校の黒川小学校を訪問し「宇宙授業 2025」を行った。授業は日本人初の米スペースシャトルミッションとなった 1992 年の初飛行で、宇宙を飛行するシャトル船内と黒川小学校をテレビ中継で結んで行って以来 33 年ぶり。

余市宇宙記念館が「新世代へつなげる」をテーマに主催。4 年生以上の 152 人や保護者が対象で、当時小学生で黒川小学校に通っていた母親とその子供と一緒に参加する姿もあった。

毛利さんは授業前半で、1992 年と 2000 年の宇宙飛行とその後の南極や深海で取り組んだ実験や自身が経験した環境について映像を交え解説した。

授業後半では SDGs の「海の豊かさを守ろう」をテーマに、毛利さんから参加児童全員に寄贈された副読本を使いながら海中プラスチック問題について対話式で進められた。

毛利さんが児童へ意見を求めると次々と手が上がり、活発に対話しながら海洋環境について学習を深めていた。

世界の海にはプラスチックごみが毎年 800 万トンと大量に捨てられており、このままでは、2050 年ごろには海中のプラスチックごみの量が魚介類の量を上回るとの国連などの予想も紹介した。

参加した6年生の児童は「海のプラスチックの量が多くて驚きました。将来は JAXA など宇宙に関する仕事もしてみたい」と声を弾ませていた。

